

## 平成 28 年度第 1 回学校運営協議会議事録

日時:平成 28 年 4 月 28 日(木)19:00 ~ 20:30

場所:秋津小学校 2階会議室

司会:教頭・小関 記録:渡辺

### 【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	9	社会福祉協議会秋津支部長	森崎 俊治
2	秋津小学校 PTA 会長	小西 正大	10	市教育委員会指導課長	上原 宏
3	秋津小学校 PTA 副会長	十文字満美	11	市青少年センター所長	浦野 哲
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	12	秋津小学校校長	井上 聡子
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	13	秋津小学校教頭	齋藤 信幸
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	14	秋津小学校教務主任	渡辺 雅和
7	学校支援ボランティア代表(情報)	小関 秀夫	15	秋津小学校生徒指導主任	関 陽介
8	学校支援ボランティア代表(環境)	桑名 英一			

習志野市教育委員会から 進行: 戸丸指導主事

#### 1 辞令交付

#### 2 学校教育部より(指導課 課長 上原 宏)

1年間、よろしくお願ひします。子どもたちを取り巻く環境は厳しくなっている。いじめ・子どもたちの貧困・体力の二極化など、学校だけでは大変厳しい。夢と希望をもって学校生活を送れるよう、学校・保護者・地域・行政が一体となり、核となってい<必要がある。

#### 学校運営協議会委員自己紹介

自己紹介を行う

#### 第1回学校運営協議会会議

##### 1 役員選出

委員長 : 小関 秀夫

副委員長 : 小西 正大

##### 2 報告事項

(1) 平成 28 年度第 1 回パートナー会議議事録 ・資料 1A

教頭 ~ 資料に基づいて報告

##### 3 協議事項

(1)平成 28 年度学校経営の基本方針について 資料 4

・学校経営方針 ・学校経営の全体構想 ・校内組織 ・指導重点と評価

校長 ~ 資料に基づいて提案

(小関)あいさつ運動について

毎朝、安全支援ボランティアとして立っているが、低学年児童はよくあいさつをする。特に1年生が一番良い。高学年へ行くとほど、あいさつをしていない。あいさつはお互いが気持ちよくなるものである。

中学生、高校生も通り、小学生の時から知っている生徒たちだが、半数以上はあいさつをする。もっと学校として力を入れてやっていきたい。

(玉井)今週、第七中学校区としての取り組みであいさつ運動を行っている。おおむね、こちらから声をかけると返ってくる。

1年生が泣いて登校しているときに、3年生が「一緒に行くよ。」と付き添ってあげていた。昨日今日とその1年生は一人で登校できていた。やさしい気持ちがつながっていた。上の学年の児童が温かく接してくれていると下の学年の児童は気持ちが明るくなる。

気になったのは、下を向いている子、うつむきかげんの子どもがいるということである。子どもも大人も、先生方も上を向いて歩くようにしてほしい。

(森崎)今週、あいさつ運動をしていて、初日、二日目とこちらからあいさつをしても、あまり返ってこない。

目線を児童と同じくらいに下げてもなかなか上を向いてくれない。三日目くらいから少し増えてきたが、まだ少ない。そこで、あいさつが返ってこないときは、こちらから「球」をもう一度投げてあげる。そうするとあいさつが返ってきた。「ちーぱくん」のシャツを着て行ったときは、「ちーぱくんだよ」と「球」を投げたら、明るく顔を上にあげてきた。

(浦野)浦安の小学校に勤務していたとき、「あいさつ」をキーワードとして全校で取り組んだ。着任した当時はこちらからあいさつをしても、知らんぷりをして素通りしていたが、何かにつけて「あいさつ」を前面に出し続けたおかげで、1年かけてじわじわと成果が上がってきた。大人がやる気を出してやると伝わってくる。2年後には自分からあいさつができる児童が多くなってきた。

地域でも「秋津小学校ではあいさつを目標にがんばっているよ」ということを広めていったらどうか。

(井上)毎朝幼稚園児を迎えていてあいさつをしているが、今はあいさつだけでなく、お互いにやり取りをプラスするようにしている。言葉を交わしたりやりとりをしたりすることが楽しくなる、心地よくなる、この体験が大切である。そうすると、自分からあいさつができる人に育つことにつながるのだと思う。

(渡辺)家庭訪問で放課後に道を歩いていると、出会った児童の全員が元気に声をかけてくる。放課後は出来て、朝は少ないというのは、やはり気分的なものなのかなと思う。朝も元気にできるようにしていきたい。

(2)今後の活動方針について 資料 15 ページ～23 ページ

・活動方針 ・学校評価関係 ・その他(注1)

(小関)「習志野市学校運営協議会規則」第4条について

本来、協議事項の内容は承認を得なければならないものである。承認を得て、学校が動き出すこ

とができる。また、第4条(4)「予算執行に関する事」については、毎年協議されていない。規則に沿うなら出さなければいけないし、無理ならば規則を見直す必要がある。

「習志野市学校運営協議会規則」第6条3について

今年から委員になった人もいるので言うが、皆さんは、特別職の地方公務員という身分になっている。

「習志野市学校運営協議会規則」第7条について  
守秘義務があるので、くれぐれもお願いします。

(伊坂)学校運営協議会は何によって支えられているのか6 この会議の根拠を確かめたい。規則第4条に教育課程や経営計画、組織編成、予算執行、施設管理など承認を取らなければならない。この承認がなければ学校が動かない。追承認でもよい。これがコミュニティースクールの意義である。普通の学校とはちがう。極端に言えば、担任を替えてほしいがあってもよい。この協議会が校長をバックアップしていくつもりで行ってほしい。  
授業が週に何時間あるのか。1年間に何週間あるのがなどの教育課程や日課時程表などが出されていない。本来ならば出すべきである。

(小関)予算執行に関われないのであれば協議会として活動の内容になっていないので、第4条の条文を削除すべきではないか。

(上原)予算執行について、学校で使える予算については決まっている。第4条の予算執行についてのご意見に対しての見直しを検討の材料としていきたい。

(小関)こういった形でお金、人をもらっていけばよいのか。来年度へ向けて英知を出し合いながら進めていきたい。

(森崎)2020年オリンピックに向けて、セキュリティ面の予算を増やすことを要望します。競技会場に近いということもあり、いろいろな国の人が入ってくる。したがって、そういう面での予算を多めに割いてほしい。

(上原)「オール習志野」という枠で考えさせていただく。

【協議事項(1)(2)について承認されました】

4 その他

(伊坂)(2)に「その他」があるが、これは、(3)その他としてほしい。(注1)

3(3)その他として

(伊坂)秋津小学校の校長、教頭の任期が短い。コミュニティースクールであるので、もう少し幅を持たせてほしい。たとえば、2年ではな<4年くらいは。大まかな学校経営方針は前年度に決まっている。異動があれば当然それを引き継ぐわけである。根付いてやっていくなら、4年<くらいは居てほしいというのが要望である。

(上原) 人事は県の人事異動の方針に沿って進めるものである。ただ、力点を置いて人事をすることもあ  
る。この協議会でこのような要望が出されていることを回覧していきたい。

(浦野) 5年前から体育科研究が始まり、毎年公開研究会を続けている。理論化されてきていて、だんだ  
ん完成されつつある。今年はどうしていくのか楽しみである。

(小西) PTA の中でもいろいろと話し合っていきたい。こちらも勉強していきたい。

(浦野) 学校評価について経年変化を示してほしい。

(斎藤) 昨年度と変更点があったため、今年度のものについては、昨年度との変化が示せるように努  
力をしていく。

(小関) 学校評価の在り方について、わかりやすく書類を作ってほしい。

平成 28 年度第 2 回学校運営協議会議事録

日時:平成 28 年 12 月 2 日(金) 19:00~20:30

場所:秋津小学校 2 階会議室

司会:教頭・小関 記録:渡辺

【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂淳一	9	市教育委員会指導課長	上原宏
2	秋津小学校 PTA 会長	小西正大	10	市青少年センター所長	浦野哲
3	秋津小学校 PTA 副会長	十文字満美	11	秋津小学校校長	井上聡子
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤知通	12	秋津小学校教頭	斎藤信幸
5	学校体育施設利用団体代表	山下晃	13	秋津小学校教務主任	渡辺雅和
6	民生主任児童委員	玉井恵枝	14	秋津小学校生徒指導主任	関 陽介
7	学校支援ボランティア代表(情報)	小関秀夫			
8	社会福祉協議会秋津支部長	森崎俊治			

【欠席者】 学校支援ボランティア代表(環境) 桑名英一

1 会長あいさつ

2 校長あいさつ

3 報告事項

(1) 平成 28 年度第 1 回学校運営協議会議事録…資料 1

教頭～資料に基づいて報告

(2) 平成 28 年度第 1 回～第 7 回パートナー会議の内容…資料 2

教頭～資料に基づいて報告

(伊坂) 秋津っ子まつりの主体はどこか。

(教頭) 児童会が主体。クラスごとに広場を作る。

秋津まつりは地域が主体

(伊坂) コミュニティースクールの中での(秋津まつりの)位置づけはどのようになっているのか。

パートナー会議で協議することの意味付けはどうなっているのか。組織の構造を外に向かって説明していく必要があるのではないか。

(教頭) パートナー会議がこのような役割を果たしているというものははっきりとアピールしていかななくてはならないと思っている。

(伊坂) 組織運営については。

(伊藤) 秋津まつり実行委員会はまちづくり会議の事務局である。コミュニティースクールとの関わりはあまりない。

登校日としているので、開会式に子どもたちの出し物を用意している。

実行委員会には学校からは校長・教頭が出席している。反省等として出てきたものは、実行委員会が対応している。

(小関) 授業時数は総合的な学習の時間としていると思うが、はっきりさせたほうが良い。

(伊坂) まつりを授業時数に加えても加えなくてもどちらでもよい。学校の裁量としてやってよい。35 週のところ実際は 41~42 週やっているのだから、ゆとりはあるので。

(上原)このような大々的なまつりはないが、時数を総合的な学習の時間としてカウントしているところは多い。

### (3) 学校評価アンケートの結果から…資料3

#### 教頭～資料に基づいて報告

(浦野) 体育が伸びているのは6年間やってきた成果である。体育の中身を検討していくことが大事。年々中身が精選されてきている。子どもたちも先生方もわかってきている。

(山下) 教材が工夫されている。

(小関) 体育意欲が向上されている。「学習意欲」と「基礎基本」をしっかりしてもらいたい。

(伊坂) 「アンケート」と「評価」はちがう。よかったよかったではだめ。このデータを基にして、どう読むか。どうメタ評価していくか。ということ積み上げていく。データを見て、何が良くて何が足りないのか。児童の50%は良いと言っているが、その実感が職員にはない。この原因は何か。

全国学力・学習状況調査結果との関連についても読み取っていくとよい。

アンケートを基にした自己評価。この評価をどう受け止めていくか。こんな研修で生かす。こう改善していく。これらの報告書が学校評価となる。共通認識をしていく。

子どもと親の(評価)ズレをどう見ているのか。この点を評価していく。

(小関) アンケートを校内研修で生かしていく。どう改善していくか。大変だろうが、課題や方向性を明らかにしていってほしい。

(伊坂) 一人一人の力量が上がってほしい。メタ的にとらえていく。改善をしていく。共通理解をしていく。これこそが一人一人の力量を上げていくためのものである。

### (4) 2学期いじめアンケート結果…資料4

#### 生徒指導主任～資料に基づいて報告

(小関) 認識の差が大きな問題なのでお互いに共有していく。

(玉井) いじめ防止委員会は第4回パートナー会議で行い、報告を受けた。

(小関) 一昨年前はパートナー会議の始まる前の時間を使って行ったが、そのように別に企画したほうが良いのではないかと。

(玉井) 別々にしても同じにしても、情報量は同じであったので同じでもよいのではないかと。

(関) 学校以外の場面でもいじめは起きている。そういうことを地域の皆さんの目でも見ていただく。

地域の目で見守っていきましょうということ共有できれば良いのではないかと。共通理解共通行動ができればよいと思う。

(玉井) パートナー会議の方が人数が多いので、そのほうが良いと思う。

(小関) あいさつをしない子、「すっ」と行ってしまいう子、やらない子はやらない。これがいじめに何らかの関連があるのではないかと。

(伊坂) 一つ一つの案件を解決することは無理なので、このような形でよい。共通理解・共通行動ができれば良いということをもっと説明の前段部分で言うべきである。大切なので。

認知とは、いじめと感じた子がいる。親もそうとらえている。いまだに継続している。ということ。

認知件数のとらえ方は難しい。何でもかんでも認知するのか。重大事態については決まったものがある。それ以前のをどうするか。「ちょっとしたこと～深刻なもの」この間をどうするか。

「認知とは何だ」と説明する必要がある。「これは認知だ」と説明する必要があるのは校長である。

る。

#### 4 協議事項

##### (1) 学校評価の実施と教育活動の改善について…資料 5

特に意見なし

【協議事項(1)について:承認されました】

(森崎) 職員が少ない。何か要件を満たしていないのかもしれないが。

(上原) 職員の配置については県の配置基準に従っている。学校規模によって加配の数が違う。

講師の対応が遅れてしまい、教頭がしばらくの間担任をすることになってしまった。

学校教育課が担当部署なので、持ち帰って申し伝える。

(伊坂) 文部科学省対財務省の図式になっているもので、大きな予算措置によるもの。パブリックコメントに書き込むことから始める。そこが動かないことには始まらない。周りを巻き込んでいく。パブリックコメントをいっぱい書いてもらう。

(森崎) 秋津地区は習志野市で高齢化率第 1 位。地域住民もやりたいことはあるけどできない。行政の力を借りたいとき。地域には貢献したいけれどなかなかできない。力添えが欲しい。

(小関) 平成 14 年くらいだったか、麻生さんと鮎川さんが県に加配をお願いに行ったことがある。コミュニティースクールとしてではなく、普通の学校として人数が決められている。

1 年 2 組の担任が決まって良かった。アクシデントに対する対応が迅速にできなかったのかと周りから見るとそうみえる。

生涯教育という観点で秋津小を進めていく。先生の数、加配のことを含めて、学運協として進めていきたい。

#### 5 その他

○第 3 回学校運営協議会の開催日について

教頭～3 月 1 日(水)と確認。

平成28年度 第3回学校運営協議会議事録

日時:平成29年 3月 1日(水)19:00~20:30

場所:秋津小学校 2階会議室

司会:教頭・小関 記録:渡辺

【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	9	社会福祉協議会秋津支部長	森崎 俊治
2	秋津小学校PTA会長	小西 正大	10	市教育委員会指導課長	上原 宏
3	秋津小学校PTA副会長	十文字満美	11	市青少年センター所長	浦野 哲
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	12	秋津小学校校長	井上 聡子
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	13	秋津小学校教頭	齋藤 信幸
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	14	秋津小学校教務主任	渡辺 雅和
7	学校支援ボランティア代表(情報)	小関 秀夫	15	秋津小学校生徒指導主任	関 陽介
8	学校支援ボランティア代表(環境)	桑名 英一			

1 会長あいさつ

2 校長あいさつ

3 報告事項

(1)平成28年度第2回学校運営協議会議事録・・・資料1

教頭～資料に基づいて報告

(2)平成28年度 第1回～第9回パートナー会議の内容・・・資料2

教頭～資料に基づいて報告

(3)学校評価集計結果から・・・資料3

教頭～資料に基づいて報告

(浦野)誰が対象なのか、保護者なのか。

(教頭)保護者です。

(小関)とんぼスタディはよい取り組みである。

(上原)新しい取り組みがなされている。何か新しいことをやると賛否があるが、子どもの姿で示していき  
るように。新しいチャレンジはよい。

(伊坂)この報告資料自体が保護者に配布したものなのか。それとも今日のためのものなのか。

(教頭)後日、この資料を配布する予定です。

(伊坂)1～3については知・徳・体に関わることなのでわかるが、そのあとの4, 5についてはどこから出  
てきたものなのか。

(教頭)4は生きる力の根源、家庭との連携について、5についてはコミュニティスクールなので評価して  
いただいた。

(伊坂)1～3については目標があって評価となっているが、4, 5は子ども像がないので、一貫性を持た  
せたほうが良い。

この形で公表していくということで、もっと褒めているものもあるんじゃないのか、改善、マイナス



は具体的になっている。

課題を列記していて、先生方も苦しいのではないか。

(教頭)個人名が特定するものは省いてる。

(伊坂)先生方が落ち込んでしまうのではないか。

こういう良いことをやっています、評価していただきたいものをもっと打ち出したほうが良い。もっと胸を張ったほうが良いのではないか。

(関) よいコメントを励みにしている。気づかない点をご指摘いただくことがありがたい。

(伊坂)学校評価をまとめた経験から、そのまま受け止めたりマイナスをすべて気にしていたら、落ち込んでしまう。これだけよいことをやっている、すごいことをやっているということを出した。あえて良い点を示していく。

(森崎)192名全員でない。出していない家庭はどう考えるのか。好意的なものか、それとも否定的なものなのか。31家庭が出していない。

(伊坂)提出率が86%。90%は欲しい。

(山下)問題視して出さないのか。問題視している時は記述しているのではないか。

(浦野)良い評価のほうが多い。「良い・大体良い」も具体的に記述してもらう。根拠も書いてもらうとよいのでは、単なる「よい」ではなくて。

分析が大変になってしまうが、パートナー会議でも分析してもらうようにする。そのまま出してしまうと批判的なものに目が行ってしまう。

(伊坂)「1」について何を見て評価したらよいのかわからないのでは。

アンケートの前に「1」をするために学校ではこれをやっています。と明示する。学校目標を達成するためにこれをやっています。重点目標を示す。これについて評価するとしやすい。そうでないと、印象になってしまう。「印象」とならないようにこれのためにこれをやっています、と示し評価してもらう。

(玉井)パートナー会議では、親とは別の視点なので、「親は何をやっているんだ」という意見が出た。親への発信があってもよい。

(小関)学校評価の在り方について、育てたい児童像とどうつなげるか。経営の重点の30項目を育てたい児童像と絡める。

(上原)こんなことを頑張ってきてきたけど、どうですか。と聞くのもよい。先生方の意見を入れたほうがよいのかな。

(井上)具体的に聞いていくのはどうなのか。

(伊坂)個別には聞かないで、「1」についてはこれとこれとこれをやっています。年度はじめに出して年度終わりに評価する。アクションプランだったらできた、できないがわかる。

(教頭)アンケートの前に A4 版2ページを提示し、回答しやすいようにした。事前に示した。自由記述については評価に対する答えではないものもあった。

(森崎)(自由記述の一意見を取り上げて)子どもの否定的な声をそのまま受け取るのではなく、良さを見つけてあげたり、こういうことは苦手だけどこういうところは光っているねと言ってあげる。

(教頭)運動の二極化がある。パートナー会議の意見を示すことでアピールしているつもり。

(伊坂)体育の授業は、「うまくなること」「強くなること」が目標ではない。ということを伝えているのか。保護者に対する教育が足りない。

(森崎)これは苦手だけど、これはできる。と言ってあげる。

(伊藤)親に対する教育は難しい。対応しきれないものもある。

(伊坂)「次年度へ向けて」のところに学校の考えを言ったほうが良い。わかってもらえないかもしれない

が。

(井上) そのほうが良いと思う。理想としてはどんな意見でも運営をよくするためなので、記述式で実施したい。でもそうするといいことが言えなくなるので悩む。

(小関) アンケートだから、賛否があるのはしょうがない。意図をもってやっているのだから、それを理解してもらえないのであれば説明が必要。また親も意図を理解すべき。

#### 4 協議事項

##### (1) 学校評価結果と教育活動の改善について…資料3

[重点1]について教頭が、[重点2～4]について教務主任が説明

(小関) 重点3-4について、若干取り組みが少なくなっている。先生方が忙しいのではないかと。道徳、英語等増えてきている。教えることが多くなっている。少しずつ減っていつてしまうのでは。教科学習が中心となってしまうのではないかと。

打ち合わせや引継ぎが大変。どうにか踏ん張ってほしい。ビオトープの生態系の授業も。

[重点5～8]について教頭が説明

(伊坂) 目標と評価の項目がちがうからわかりにくい。何をしたか、できなかったかの整合性。改善すべきである。

年度初めにできないことは書かない。確実にやることをやる。

(浦野) 「とんぼスタディ」親向けのもはわかりやすい。半面子ども向けが、わかりにくい。貼っておくならパッと見てわかるようにするとよい。フォントも大きさもちがうので見にくい。

(伊藤) 学校経営方針が多いのでは。

(伊坂) 今までのものを一度全部捨てる。やることが多い。いらぬ修飾語を削る。読む気がしない。努力目標は書かない。そうしないと、どんどん増えてしまう。

(玉井) 保護者が経営方針をどれだけ読んだか。評価に関しても同様。わかりやすい情報の開示。発信していても多すぎるとスルーしてしまう。親も忙しい。

(小関) 経営の重点をもっと絞る。具体的な内容のほうがわかりやすい。評価にもつながる。

キャッチコピーを書いて、補充的な学習～とんぼスタディ・とんぼセミナー…と。

(山下) 量を減らしていくべき。

(井上) 「わかりやすく」をキーワードに取り組んでいきたい。

[P24以降]について教務主任が説明

(小関) 重点の8項目について熱心に資料作りをしてくれた。感謝したい。

#### 5 その他

(小関) 資料の配布をせめて一週間前にしてもらいたい。内容に目が通せるし、勉強もできる。

学校評価に向けて検討していく。

第1回学校運営協議会はパートナー会議よりも早いほうがよいのだが、むずかしい。

年度最後の学校運営協議会で次年度の教育課程の編成を大まかで承認する機会とする。